

むすび

本外部評価報告書は、京都大学防災研究所の自己点検・評価委員会（平成 15 年 5 月に新体制で発足）が、井上和也所長の要請を受けて、平成 15 年度中に外部評価を行うことを目指し、外部評価会議の準備・実施から報告書作成に至るまでほぼ半年を費やして、ここにとりまとめたものである。京都大学防災研究所がこの種の外部評価報告書を取りまとめるのは、平成 10 年度の最初の報告書以来、五年ぶりのことであり、今回が第二回目となる。

振り返ってみると、与えられた時間等の制約や、外部評価の実施のための知識や経験の不足ならびに系統的な定型化マニュアルなどの蓄積の欠如などのため、必ずしも十分に満足できる形でのとりまとめができていないことは否めない。また外部評価者の専門・経験の領域が、本研究所のあらゆる専門的研究の範囲と多様性を、偏りなく適正にカバーしているとも言えない。さらには、外部評価としての他者の視点は、災害や防災に関わる専門家以外の多様なスペシャリストや、起業家・経営者、一般市民、マスメディアなどの方の見方や立場を踏まえることも必要であろう。従って、本報告書の内容は、このような留保条件を踏まえて解釈し、利用されることが求められる。

とはいうものの、今回、外部評価者としてご協力いただいた内外からの 9 名の専門家の方からいただいたご指摘と評価ならびにご示唆は、きわめて貴重で有意義であり、本報告書はそれを可能な範囲で、できるだけそのままの形で記載することを旨とした。各評価者には、改めてそのご好意とお力添えに対して深く御礼を申し上げたい。また、外部評価を行い、それを取りまとめるに当たって、本研究所のスタッフ一同が、改めて自身と研究所自体を包括的に自省し、その価値と抱える諸課題に目を向ける機会になったことは、本外部評価のもたらした副産物であると思われる。

本報告書が、今後、いろいろな場面や機会に、多数の方に活用されるとともに、ひとつの評価規範の資料として、今後の研究所のさらなる飛躍と発展に資することを切望する。

自己点検・評価委員会委員長 岡田憲夫

自己点検・評価委員会

岡田 憲夫	SIDLE, Roy Carl	寶 馨	伊藤 潔
澤田 純男	石川 裕彦	林 泰一	矢守 克也
畑山 満則	多河 英雄	隅井 利和	(事務担当)